飢餓と貧困から人びとを救うために

食糧支援ニュースレター

WFP World Food Programme

2009.7.24 Vol.28

TOPICS

■学校給食支援・新公共広告キャンペーン「hopeを消さないで」
■パキスタン、スリランカで緊急支援
■「地球のハラペコを救え。」ウェブサイト公開！
■モハメッド・サレヒーン　WFP日本事務所代表の横顔
■TAKE ACTION FOUNDATION
■私たちのWFP支援　中村屋
■WFPマンスリー募金プログラムのご案内
■第6回WFP生徒作文コンクール開催
■「ウォーク・ザ・ワールド～地球のハラペコを救え。～」開催報告

学校給食支援・新公共広告キャンペーン「hope を消さないで」

© AC ジャパン

「hope を消さないで」

WFP の学校給食プログラムの公共広告が、AC ジャパン（旧公共広告機構）の支援キャンペーンとして、7 月 1 日より、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌や交通広告を通じて全国展開することになりました。

今回の広告作品は、昨年 7 月から一年間展開された学校給食の公共広告キャンペーン「hope」の第 2 弾です。昨年に続き、WFP が給食の配膳に用いている赤いカップを給食＝hope の象徴として描き、学校給食プログラムへの支援を呼びかけます。広告の企画・制作は電通名鉄コミュニケーションズが、テレビ・ラジオ広告のナレーションは、去年、第 4 回アフリカ開発会議（TICAD IV）の親善大使も務めた女優の鶴田真由さんが担当してくださいました。

近年、食糧価格高騰と世界経済悪化の影響で、途上国の食糧事情は更に深刻化し、飢餓人口が急増。2009 年には 10 億人を突破する見込みです。支援を必要とする人々が急増する中、WFP の活動も困難の度を増し、去年は資金不足により学校給食の一時停止さえ余儀なくされました。この状況を受けて、今回のキャンペーンは、子どもたちの給食＝hope が消えかけている現状を訴え、この深刻な状況に歯止めをかけるべく「hope を消さないで」と訴えるものです。

笑顔を忘れず たくましく生きる子どもたち

5 月初旬、アフリカのルワンダで今回の広告作品の撮影が行われました。ルワンダは「千の丘の国」とも呼ばれる自然豊かな内陸国ですが、1994 年、80 万人以上が犠牲となる大虐殺が発生し、国の社会・経済に大きな爪痕を残しました。以来、急速に復興を遂げてきたものの、国民の 5 割近くは食糧難かそれに近い状態にあります。特に子どもの栄養失調率は高く、5 歳以下の子どもの 45%は慢性的な栄養失調状態です。理由としては、人口密度が高く世帯あたりの耕作面積が小さいこと、度重なる自然災害、HIV/ エイズの拡がりなどが挙げられます。

今回の撮影は、首都キガリより南へ車で約 1 時間のところにあるブゲセラ地区のビハラグ小学校で行われました。特に貧しいこの農村地域では、小学校に通い続け無事卒業できる生徒は全体の 45%にとどまります。生徒の半数は、大虐殺や HIV/ エイズで少なくとも片方の親を亡くしており、中には両親を亡くして子どもだけで暮している世帯もあるとのこと。また、近年干ばつがひどく、農業も不作続きのため、生計を助けるために牛飼いや水汲みなどの家事を手伝い、学校に通っていない子どもたちも多くいます。

WFP はこの小学校で 2001 年より学校給食の配給を始めました。すると、就学率が急上昇し給食開始前には 1134 人だった生徒が、現在は 1571 名（男子 803 名、女子 768 名）にまで増えました。一度中退した生徒が復学するケースも増え、3 年生のクラスで 15 歳の子どもが学ぶなどということも頻繁に見られます。

1500 人以上の給食を用意するため、地元の大人が数名、調理員として雇われており、毎朝 6 時から自転車を走らせ、2 時間かけて湖から 150 リットルの水を汲んできます。高学年の生徒は、通学途中に調理用の薪を集めてきます。低学年の生徒も、給食に入れる雑穀を道端で集めます。自宅から水を持ってこられる生徒は持ってきます。地域全員の協力があって給食がなりたっています。

給食は、とうもろこしや豆を煮たものに、雑穀を混ぜたものです。これが一日唯一の食事の子どもも多いとのこと。ビハラグ小学校は国が指定する「最も貧しい小学校」19 校の一つに指定されており、給食はまさに子どもたちの命綱となっています。

寄生虫の影響でお腹が膨らんだり、髪の毛の色が褪せ栄養不良の状態が外見に表れたりしている子どもも見受けられましたが、子どもたちの目はきれいに澄み、精一杯生きているというたくましさが感じられました。WFP は、ルワンダの明日を担う子どもたちが、貧しさに負けず、たくましく希望とともに成長していくよう学校給食を推進し、2012 年末までにルワンダ政府に給食事業を引き継ぐ予定です。

WFP は世界およそ 70 カ国で 2000 万人以上の子どもに学校給食を配給しています。子どもたちへ希望を届けるため、引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

© M.Kuroyanagi

一杯の給食が子どもたちの希望の源

緊　急　支　援　報　告

多数の避難民が発生したパキスタンで食糧支援拡大

パキスタンとアフガニスタンの国境付近では、パキスタン軍によるタリバン掃討作戦によって 200 万人以上が避難民となっています。このような大規模な避難民の発生は、過去 15 年間に世界で起きたものとしては最大級です。WFP は、避難民を受け入れている村や避難民キャンプ、ならびに様々な支援物資を提供する人道支援センターにて、小麦粉、米、砂糖、豆類や栄養強化ペーストなどを配給しています。WFP は 5 月の一ヶ月間だけで、300 万人近くに対し 4 万 7 千トンの食糧を配布しました。

日本政府からは 4 月と 6 月の 2 回、計 700 万ドルがパキスタン支援として拠出されました。モハメッド・サレヒーン WFP 日本事務所代表は「日本からパキスタンへの緊急支援は、避難民たちが少しでも安心して人間らしい生活を取り戻すためにとても重要なもので、最も弱い立場にある彼らを代表して感謝の気持ちをお伝えします。」と述べています。

人道支援センターにて食糧を受け取る人々

内戦終結したスリランカで食糧支援拡大

26 年間続いた内戦が終わりを迎えたスリランカにて、WFP は国内避難民への食糧支援を強化しています。

スリランカ政府軍と少数派タミル人の反政府武装組織との戦闘によって約 30 万人が国内避難民になりましたが、WFP は 6 月 2 日までに、スリランカ政府が設置した 40 以上の臨時キャンプで 28 万人に米、小麦、レンズ豆、砂糖、食用油などの食糧を配給したほか、食事の炊き出しも行いました。更に、5 歳未満の子どもと妊娠・授乳中の女性には栄養強化食品を配給しています。

食糧配給を待つ人たち

「地球のハラペコを救え。」ウェブサイトが公開！

ウェブサイト冒頭部分

「チッチッチッ」という時計の秒針音とともに、カラーで表示されていた途上国の子どもの顔写真がモノクロに代わり、その写真が二次元バーコードに変化。しかし、6 秒後にはそのコードがばらばらに崩れ去る―。これは、このたび WFP が電通とのタイアップのもとに制作した、「地球のハラペコを救え。」という新ウェブサイトの冒頭に表示される画面です。

このサイトは、世界の飢餓の現状を知ってもらい、状況の改善に向けた行動を提案するもの。二次元バーコードを用いて PC と携帯を連動させるという新しい仕組みです。二次元バーコードが 6 秒に 1 回崩れ去るのは、世界では、飢えが原因で 6 秒に 1 人の子どもが命を落としているということを表しています。

このサイトを訪れた人は、携帯電話で二次元バーコードを読み込み、PC と携帯の画面を行き来しながら、世界の飢餓の状況について学んだり、「地球のハラペコを救え。」のシンボルマークをダウンロードしたり、募金をしたりすることができます。また、WFP の学校給食支援を受ける子どもたちの写真と「地球のハラペコを救え。」のシンボルマークをあしらったブログパーツをダウンロードすることも可能。ブログをお持ちの皆さま、「地球のハラペコを救え。」のブログパーツをブログに貼って、周りの人たちへ飢餓問題への問題意識を広めてみませんか？

「地球のハラペコを救え。with 知花くらら」

このウェブサイトの公開を記念して、去る 5 月 25 日、イベント「地球のハラペコを救え。with 知花くらら」が開催されました。会場の東京・銀座アップルストアは立ち見も出る盛況となりました。

イベントには、WFP オフィシャル・サポーターの知花くららさん、ウェブサイトの制作を担当した電通のクリエーター本田亮さんと佐々木康晴さんの三名が、「地球のハラペコを救え。」のロゴがプリントされたお揃いの T シャツ姿で参加。フリートーク形式で進められました。

本田亮さんは、「地球のハラペコを救え。」のシンボルマークやポスター、学校給食支援の公共広告など、これまで WFP の広告作品を多く手がけ、クリエイティブな側面から WFP を支援してきて下さいました。ご自身がモザンビークを訪れた時のエピソードを交えながら、「途上国の人々が直面している状況を他人事と思ってほしくないのです。私たちの生活に密着に関わっているということを伝えたい。」と、会場の皆さんへ語りました。また、ウェブサイト制作の指揮を取った佐々木康晴さんは、「携帯電話というツールを使うことにより、まるで飢餓地域の子どもたちと直接話しているような感覚を持ってもらえると思う。飢餓問題を身近な問題だと体感してほしい。」と、サイトに込めた思いを語りました。

知花くららさんは、昨年、ザンビアを視察に訪れた際に人々と触れ合って感じたことを、当時の写真を見せながら語りました。「飢餓の現状を目の当たりにし、ザンビアでの経験はとても衝撃的でした。それでも、日本にいる私たちは毎日忙しく、いつも途上国の人々のことを考えるのは難しいのが現状。でも知ることが第一歩です。このサイトを通じて、世界の状況を少しでも知ってもらえるきっかけになればすてきだと思います。」と語りました。

「地球のハラペコを救え。」ウェブサイトをぜひチェックしてみて下さい。

http://hara-peko.jp

（左から）電通の佐々木康晴さん、WFP オフィシャルサポーター知花くららさん、電通の本田亮さん

モハメッド・サレヒーン　WFP 日本事務所代表の横顔

モハメッド・サレヒーン WFP 日本事務所代表

昨年 10 月、インドに異動した玉村美保子の後任として、モハメッド・サレヒーンが WFP 日本事務所代表に就任しました。

サレヒーンは WFP で 30 年以上のキャリアを持つベテランです。ソ連崩壊直後、旧ユーゴスラビアなど混乱に陥った東欧諸国での食糧支援を指揮したほか、湾岸戦争直後のイラク、インド洋大津波発生直後のインドネシア、内戦の真只中にあったスーダンやスリランカなど、世界の中でも過酷な現場を渡り歩き、人道支援の最前線で活動してきました。

サレヒーンのモットーの一つは、「苦しんでいる人たちのことを常に心に留める」ということです。バングラデシュ出身のサレヒーンは、幼少時から、サイクロンや洪水などの自然災害や、戦争に苦しむ人たちの姿を見て育ちました。そんな中、父や祖父が熱心に行っていた社会事業活動を通し、たった少しの支援がいかに人々の生活の改善と自立につながっていくかを見たのが、今の仕事の原点になっています。「世界中のすべての人には生きていくために最低限必要なものがあります。きちんと食べ、子どもを学校にやり、屋根のある住居に暮らすこと。それから、平和。私たちの仕事は、人々に奉仕し、彼らが人間として生きるために必要なものを手に入れられるよう、手助けをすることだと思っています。」

もうひとつのモットーは、「いつも心に希望を」ということです。WFP 職員として勤務中、危ない目にも何回か遭遇しました。イラクでは乗っている車が銃撃を受け、エチオピアでも目の前で銃撃戦が始まったことがありました。「でも、私たちの仕事は、希望を失った人たちに、食糧とともに希望を届けることなのです。自分が希望を持っていなければ他の人に希望を届けることなんて無理でしょう。だから私はいつでも心に希望を持つようにしています。」とサレヒーンは言います。

日本事務所代表としてのサレヒーンの抱負は、豊富な現場経験を活かし、日本からの寄付金が現地でいかに役立ち、感謝されているかを伝え、支援の輪を拡げていきたい、ということです。特に、日本は学校給食の長い歴史を持ち、戦後の復興にも給食が大きな力となったように、世界の学校給食のモデルケースでもあります。「次世代へのわずかな投資が社会の発展や平和作りにどれだけ役立つか、日本の皆さんにはよく理解していただけるはず」とサレヒーンは信じています。

趣味は、歌うこと、作曲、読書、旅行。人と会ったり話をしたりするのも大好きなオープンな性格です。皆様、サレヒーン代表をどうぞよろしくお願いいたします。

TAKE ACTION FOUNDATION

サッカー元日本代表の中田英寿氏が代表理事を務める一般財団法人 TAKE ACTION FOUNDATION は、インターネットを通じて誰もが気軽に参加できる「+1 クリックアクション」を開始しました。これは、TAKE ACTION FOUNDATION 公式サイト内の専用ページを訪れた人の“クリック”が、社会貢献活動への参加に繋がるというプログラムです。第 1 回目となるクリック募金の寄付先には、WFP の学校給食プログラムが選ばれました。“1 クリック”＝ケニアの子どもたちへの“1 食分の給食”となっており、10 万食分の給食の提供が目標とされています。5 月 28 日に開催された記者発表会には、モハメッド・サレヒーン WFP 日本事務所代表も出席、中田氏に感謝の意を表しました。「+1 クリックアクション」を通じての WFP 支援にご協力ください。WFP は同財団の、サッカーを通じて夢と希望を与える「LIFE AFTER FOOTBALL PROJECT」にも参加しています。WFP と同財団との今後のパートナーシップにも、ぜひご注目ください。詳細は、TAKE ACTION FOUNDATION のホームページをご覧ください。

http://1clicktakeactionfoundation.net/

私たちの WFP 支援　中村屋

株主への優待制度に、社会貢献活動を採り入れる企業が増えています。各種和洋菓子、パン等の製造・販売やレストラン事業を展開する中村屋では、株主優待制度の選択肢として WFP への寄付（2000 ～ 4000 円）を加えるなど、WFP への支援活動を推進しています。寄せられた寄付は、WFP の学校給食プログラムに活用されています。

株主優待制度での社会貢献活動などの導入に携わった
CSR 推進室と総務・人事部の皆様

また、同社では、食に携わる企業として「飽食」と「飢餓・貧困」という不均等の問題の改善に取り組みたいと、2008 年 4 月から東京事業所の社員食堂で、従業員から寄付金を集める取り組みを実施しています。具体的には、社員食堂で健康的なメニューを選んで食べると、一食につき 20 円がテーブル・フォー・ツーを通じて WFP の学校給食プログラムに寄付されるというもの。現在では神奈川事業所、埼玉工場、つくば工場、本店でも実施しています。

CSR 推進室の吉岡修一部長は、「飽食、贅沢に慣れた私達がいる一方で、貧困、飢餓にあえぐ人が、世界には大勢います。中村屋では食を通じた社会貢献を実現するため、社員をはじめ、ステークホルダーの皆様と共に中村屋らしい CSR 活動を推進したい」と語りました。

WFP マンスリー募金プログラムのご案内

皆様、WFP のマンスリー募金プログラムをご存知でしょうか。WFP マンスリー募金とは、継続的なご支援を可能にするために毎月一定額を引き落としするシステムです。月々 1,000 円から、1,000 円単位で任意の支援金額をお選びいただけます。「コツコツと着実に支援したい。」「子どもたちへの支援を自分のライフスタイルに取り入れたい。」とお考えの方にぴったりのプログラムです。

たとえば…
- 3,000 円で…エイズ孤児に食事を 100 日間提供できます。
- 5,000 円で…1 人の子どもに学校給食を 1 年間提供できます。

マンスリー募金プログラムにご加入いただいた皆様には、ニュースレター（年 3 回発行）と、寄付の使途レポートをお届けし、寄せられたご寄付がどのように活用されているかご報告させていただきます。

皆様からの継続的なご寄付により、安定した、またより多くの人々への支援が可能になります。世界中に笑顔の輪が広がるようご協力をお願いいたします。

【お申し込み・お問い合わせ】
ホームページ　www.wfp.or.jp
または国連 WFP 協会　0120-496-819

© WFP ／ David Orr

第 6 回 WFP 生徒作文コンクール開催

世界の飢餓問題と WFP の活動について、多くの子どもたちに学んでもらい、自ら何ができるかを考えてもらうため、小学校高学年及び中学生を対象に、WFP 生徒作文コンクールを開催します。食糧の値上がりや世界経済の悪化で、飢えに苦しむ人の数が急速に増えています。2009 年、飢えに苦しむ人の数は 10 億人を超えると見られています。そのうち 3 億 5000 万人以上が子どもたちです。食べるものがなく困っている世界の友達を救うため、私たちにはどのようなことができるでしょうか。皆さんのアイディアを教えてください。

© Marcus Prior

【概要】
テ ー マ：「地球のハラペコを救え。～世界の友達を救いたい。私の提案～」
題　　名：自　由
募集期間：2009 年 6 月 10 日（水）～ 9 月 10 日（木）〔締切日必着〕
部　　門：①小学生部門（5・6 年生）
　　②中学生部門（1 ～ 3 年生）
応募方法：日本語で募集。長さは 400 字詰原稿用紙で 1,000 字から 1,200 字まで。パソコン入力の場合、文字数は 20 字× 20 行。専用の応募票（ホームページ www.wfp.or.jp　トップページの「イベント＆キャンペーン欄」から入手可能。）に必要事項を記入し、作品に添付し右記まで送付して下さい。
送 付 先：〒170-0013
　　東京都豊島区東池袋 1-42-14
　　28 山京ビル 7F　ポパル気付
　　WFP 生徒作文コンクール事務局
発　　表：10 月 16 日（金）の「世界食糧デー」に、ホームページで入賞者の氏名と入賞作品を発表予定。
　　※更なる詳細はホームページでご確認ください。

【お問い合わせ先】
WFP　生徒作文コンクール事務局
Tel. 03-3980-9030
10:00 ～ 12:00/13:00 ～ 18:00
（土日祝 8 月 15 日を除く）

「ウォーク・ザ・ワールド ～地球のハラペコを救え。～」開催報告

6 月 7 日（日）、開港 150 周年で賑わう横浜みなとみらい地区にて、子どもたちの飢餓をなくすためのチャリティー・イベント「ウォーク・ザ・ワールド ～地球のハラペコを救え。～」が開催されました。当日は晴天に恵まれ、過去最多数 3130 名の方が参加しました。ゲストに中田宏横浜市長、山本美憂さん（元女子レスリング世界チャンピオン）、三屋裕子国連 WFP 協会顧問（元バレーボール全日本代表選手）をお迎えしたほか、企業や大使館の方々、子ども連れの家族など、様々な方が参加してくださいました。

また寄付として、参加費 1,000 円のうちの 500 円（一人あたり）と、会場に設置した募金箱へのご寄付や企業各社からのご寄付をあわせて、合計 2,156,566 円が集まりました。このご寄付は WFP の学校給食プログラムに使用いたします。日本での開催は 5 度目となりましたが、多くの方にご参加いただき、飢餓問題への関心を高めることができました。参加者の皆様、そしてボランティアとしてご協力してくださった全ての方に厚く御礼申しあげます。

© JAWFP

WFP 国連世界食糧計画日本事務所
〒 220-0012　横浜市西区みなとみらい 1-1-1　パシフィコ横浜 6 階
www.wfp.or.jp

国連 WFP 協会
〒 220-0012　横浜市西区みなとみらい 1-1-1　パシフィコ横浜 6 階
TEL . 0120-496-819　月曜～金曜（祝日を除く）9：30 ～ 17：30
FAX . 045-221-2534
www.wfp.or.jp

FSC 森林認証紙（SGS-COC-001773）にノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）で印刷しています。